

1回目フォークソングの集い 2019.04.21	3回目フォークソングの集い 2019.11.09	5回目フォークソングの集い 2020.12.05
1.若いって素晴らしい	43.ずっと好きだった	76.恋の季節
2.翼をください	44.マリーゴールド	77.故郷
3.心の旅	45.サボテンの花	78.北国の春
4.花嫁	46.私はピアノ	79.瀬戸の花嫁
5.あのすばらしい愛をもう一度	47.そんなヒロシに騙されて	
6.遠い世界に	48.僕の胸でおやすみ	
7.太陽がくれた季節	49.学生時代	
8.なごり雪	50.時代	
9.戦争を知らないオヤジたち		
10.22才の別れ		
11.白いブランコ		
12.岬めぐり		
13.夢の中へ		
14.ああ青春		
15.酒と泪と男と女		
16.幻の翼とともに		
2回目フォークソングの集い 2019.08.24	4回目フォークソングの集い 2020.02.08	
17.野に咲く花のように	51.眼をとじて	
18.上を向いて歩こう	52.海岸通り	
19.さらば涙と言おう	53.妹	
20.サルビアの花	54.神田川	
21.遠くで汽笛を聞きながら	55.知床旅情	
22.今はもうだれも	56.また逢う日まで	
23.さらば青春	57.能古島の片思い	
24.春夏秋冬	58.襟裳岬	
25.若者たち	59.落陽	
26.風	60.未来へ	
27.バラが咲いた	61.結婚しようよ	
28.この広い野原いっぱい	62.赤ちょうちん	
29.白い色は恋人の色	63.学生街の喫茶店	
30.初恋	64.ロマンス	
31.乾杯	65.幸せなら手をたたこう	
32.安奈	66.真夜中のギター	
33.昴	67.人生の扉	
34.浜辺の歌	68.「イチゴ白書」をもういちど	
35.今日の日はさようなら	69.切手のないおくりもの	
36.ブルーシャトー		
37.栄光の架橋	ギターとお酒	
38.青葉城恋歌	2020.09.20	
39.負けしないで	70.チェリー	
40.空も飛べるはず	71.くちなしの花	
41.歩いて帰ろう	72.いのちの理由	
42.なんとなくななんとなく	73.TRUE LOVE	
	74.東京VICTORY	
	75.白い雲のように	

## 1.若いってすばらしい

作詞:安井かずみ 作曲:宮川泰 唄:槇みちる

あなたに笑いかけたら そよ風がかえってくる  
だからひとりでもさみしくない 若いってすばらしい  
あなたに声をかけたら 歌声がきこえてくる  
だから 涙さえすぐにかわく 若いってすばらしい

夢は両手にいっぱい 恋もしたいの  
やさしい気持ちになるの  
あぁ 誰かがあたしを呼んでいる

あなたがいつか言っていた 誰にでも明日がある  
だからあの青い空を見るの 若いってすばらしい

夢は両手にいっぱい 恋もしたいの  
やさしい気持ちになるの  
あぁ 誰かがあたしを呼んでいる

あなたがいつか言っていた 誰にでも明日がある  
だからあの青い空を見るの 若いってすばらしい  
だからあの青い空を見るの 若いってすばらしい  
若いってすばらしい 若いってすばらしい…

## 3.心の旅

作詞・作曲:財津和夫

あーだから今夜だけは君をだいていたい  
あー明日の今頃は僕は汽車の中

旅だつ僕の心を知っていたのか  
遠く離れてしまえば愛は終るといった  
もしも許されるなら眠りについた君を  
ポケットにつめこんでそのままつれ去りたい

あーだから今夜だけは君をだいていたい  
あー明日の今頃は僕は汽車の中

にぎやかだった街も今は声を静めて  
なにをまっているのかなにをまっているのか  
いつもいつの時でも僕は忘れはしない  
愛に終りがあって心の旅がはじまる

あーだから今夜だけは君をだいていたい  
あー明日の今頃は僕は汽車の中

## 2.翼をください

作詞:山上路夫 作曲:村井邦彦

今私の願い事が  
叶うならば 翼が欲しい  
この背中に 鳥のように  
白い翼つけてください

\* この大空に 翼を広げ  
飛んで行きたいよ  
悲しみのない 自由な空へ  
翼はためかせ 行きたい

今 富とか 名誉ならば  
いらないけど 翼が欲しい  
子供の時 夢見たこと  
今も同じ 夢に見ている

\* 2回繰り返す

## 4.花嫁

作詞:北山修 作曲:端田宣彦・坂庭省悟

花嫁は 夜汽車にのって とついでゆく  
あの人の 写真を胸に 海辺の街へ

命かけて燃えた 恋が結ばれる  
帰れない 何があっても 心に誓うの

小さなカバンにつめた 花嫁衣裳は  
ふるさとの丘に 咲いていた 野菊の花束

命かけて燃えた 恋が結ばれる  
何もかも 捨てた花嫁  
夜汽車にのって……

## 5.あの素晴らしい愛をもう一度

作詞:北山修 作曲:加藤和彦

命かけてと誓った日から  
素敵な思い出残してきたのに  
あの時同じ花を見て  
美しいと言った二人の  
心と心が今はもう通わない  
あの素晴らしい愛をもう一度  
あの素晴らしい愛をもう一度

赤トンボの唄をうたった空は  
なんにも変わっていないけれど  
あの時ずっと夕焼けを  
追いかけていった二人の  
心と心が今はもう通わない  
あの素晴らしい愛をもう一度  
あの素晴らしい愛をもう一度

広い荒野にぽつんというよで  
涙が知らずにあふれてくるのさ  
あの時風が流れても  
変わらないと言った二人の  
心と心が今はもう通わない  
あの素晴らしい愛をもう一度  
あの素晴らしい愛をもう一度

## 7.太陽がくれた季節

作詞:山川啓介 作曲:いずみたく

君は何を今 見つめているの  
若い悲しみに 濡れたひとみで  
逃げてゆく白い鳩 それとも愛  
君も今日からは 僕らの仲間  
飛びだそう 青空の下へ

君は何を今 待ちつづけるの  
街の片すみで ひざをかかえて  
とどかないあの手紙 別れた夢  
君も今日からは 僕らの仲間  
とび込もう 青春の海へ

青春は 太陽がくれた季節  
君も今日からは 僕らの仲間  
燃やそうよ 二度とない日々を  
燃やそうよ 二度とない日々を

## 6.遠い世界に

作詞・作曲:西岡たかし

遠い世界に旅に出ようか  
それとも赤い風船に乗って  
雲の上を歩いてみようか  
太陽の光で 虹をつくった  
お空の風をもらって帰って  
暗い霧を吹き飛ばしたい

僕らの住んでるこの町にも  
明るい太陽 顔を見せても  
心の中はいつも悲しい  
力をあわせて生きることさえ  
今ではみんな忘れてしまった  
だけど僕たち若者がいる

雲にかくれた小さな星は  
これが日本だ 私の国だ  
若い力を体感じて  
みんなで歩こう 長い道だが  
一つの道を力のかぎり  
明日の世界をさがしに行こう

## 8.なごり雪

作詞・作曲:伊勢正三

汽車を待つ君の横で僕は 時計を気にしてる  
季節はずれの雪が降ってる  
東京で見る雪はこれが最後ねと  
さみしそうに君がつぶやく  
なごり雪も降る時を知り ふざけすぎた季節のあとで  
今春が来て君はきれいになった  
去年よりずっときれいになった

動き始めた汽車の窓に顔をつけて  
君は何か言おうとしている  
君の口びるがさようならと動くことが  
こわくて下をむいてた  
時がゆけば幼い君も  
大人になると気づかないまま  
今春が来て君はきれいになった  
去年よりずっときれいになった

君が去ったホームにのこり  
落ちてはとける雪を見ていた  
今春が来て君はきれいになった  
去年よりずっときれいになった

## 9.戦争を知らないオヤジたち

作詞:北山修 作曲:杉田二郎

戦争が終わって僕等は生れた  
戦争を知らずに僕等は育った  
オヤジになって歩き始める  
平和の歌をくちずさみながら  
僕等の名前を覚えてほしい  
戦争を知らないオヤジたちさ

お腹が出てると許されないなら  
髪の毛が薄いと許されないなら  
今の私に残っているのは  
涙をこらえて歌うことだけさ  
僕等の名前を覚えてほしい  
戦争を知らないオヤジたちさ

青空が好きで花びらが好きで  
いつでも笑顔のすてきな人なら  
誰でも一緒に歩いてゆこうよ  
きれいな夕日が輝く小道を  
僕等の名前を覚えてほしい  
戦争を知らないオヤジたちさ  
戦争を知らないオヤジたちさ

## 11.白いブランコ

作詞:小平なほみ 作曲:菅原進

君はおぼえているかしら あの白いブランコ  
風に吹かれて二人でゆれた あの白いブランコ  
日暮はいつも淋しいと 小さな肩をふるわせた  
君にくちづけしたときに  
優しくゆれた 白い白いブランコ

君はおぼえているかしら あの白いブランコ  
寒い夜によりそってゆれた あの白いブランコ  
誰でもみんなひとりぼっち 誰かを愛していたいのと  
つめたいほほをよせたとき  
静かにゆれた 白い白いブランコ

僕の心に今もゆれる あの白いブランコ  
幼い恋を見つめてくれた あの白いブランコ  
まだ壊れずにあるのなら 君の面影抱きしめて  
ひとりでゆれてみようかしら  
遠いあの日の 白い白い 白いブランコ

## 10.22才の判れ

作詞・作曲:伊勢正三

あなたに さよならって 言えるのは 今日だけ  
明日になって またあなたの  
暖かい手に 触れたら きっと  
言えなくなってしまう そんな気がして  
私には 鏡に映った あなたの姿を見つけられずに  
私の目の前にあった 幸せにすがりついてしまった

私の誕生日に22本の ローソクをたて  
ひとつひとつが みんな君の  
人生だねって言って 17本目からは  
いっしょに火をつけたのが 昨日のこのように  
今はただ5年の月日が  
長すぎた春と いえるだけです  
あなたの知らないところへ  
嫁いで行く 私にとって

ひとつだけ こんな私の わがまま聞いてくれるなら  
あなたは あなたのままで 変わらずにいて下さい  
そのままで……

## 12.岬めぐり

作詞:山上路夫 作曲:山本厚太郎

あなたがいつか 話してくれた  
岬を僕は たずねて来た  
二人で行くと 約束したが  
今ではそれも かなわないこと  
岬めぐりの バスは走る  
窓にひろがる 青い海よ  
悲しみ深く 胸に沈めたら  
この旅終えて 街に帰ろう

幸せそうな 人々たちと  
岬を回る ひとりで僕は  
くだける波の あのはげしさで  
あなたをもっと 愛したかった  
岬めぐりの バスは走る  
僕は どうして 生きてゆこう  
悲しみ深く 胸に沈めたら  
この旅終えて 街に帰ろう

岬めぐりの バスは走る  
窓にひろがる 青い海よ  
悲しみ深く 胸に沈めたら  
この旅終えて 街に帰ろう

### 13.夢の中へ

作詞・作曲：井上陽水

探しものは何ですか  
見つけにくいものですか  
カバンの中もつくえの中も  
探したけれど見つからないのに  
まだまだ探す気ですか  
それより僕と踊りませんか  
夢の中へ 夢の中へ  
行ってみたいと思いませんか

休むことも許されず  
笑うことは止められて  
はいつくばって はいつくばって  
いったい何を探しているのか  
探すのをやめた時  
見つかることもよくある話で  
踊りましょう 夢の中へ  
行ってみたいと思いませんか

探しものは何ですか  
まだまだ探す気ですか  
夢の中へ 夢の中へ  
行ってみたいと思いませんか

### 15.酒と泪と男と女

作詞・作曲：河島英五

忘れてしまいたいことや どうしようもない寂しさに  
包まれたときに男は 酒を飲むのでしょうか  
飲んで飲んで 飲まれて飲んで  
飲んで飲みつぶれて 眠るまで飲んで  
やがて男は 静かに眠るのでしょうか

忘れてしまいたいことや どうしようもない悲しさに  
包まれたときに女は 泪(なみだ)みせるのでしょうか  
泣いて泣いて ひとり泣いて  
泣いて泣きつかれて 眠るまで泣いて  
やがて女は 静かに眠るのでしょうか  
またひとつ女の方が 偉(えら)く思えてきた  
またひとつ男のずるさが 見えてきた  
俺は男 泣きとおすなんて出来ないよ  
今夜も酒をあおって 眠ってしまうのさ  
俺は男 泪はみせられないもの  
飲んで飲んで 飲まれて飲んで  
飲んで飲みつぶれて 眠るまで飲んで  
やがて男は 静かに眠るのでしょうか

### 14.ああ青春

作詞・作曲：吉田拓郎

ひとつひとりじゃ淋しすぎる  
ふたりじゃ息さえもつまる部屋  
みつつ見果てぬ夢に破れ  
酔いつぶれ夜風と踊る街  
哀しみばかりかぞえて 今日も暮れてゆく  
あゝ青春は 燃える陽炎か  
あゝ青春は 燃える陽炎か

いつつ生きてる後味悪さ  
胸に噛みしめれば泣ける海  
やっつやめるさ抱きあっても  
ころろは遠ざかる安い宿  
眠れぬ夜をかぞえて 日々は過ぎてゆく  
あゝ青春は 燃える陽炎か  
あゝ青春は 燃える陽炎か…

### 16.幻の翼とともに

作詞・作曲：西岡たかし

今でもぼくは 思い出すのさ  
あの頃の事 あの日の人  
ぼくと同じ学生だった  
国のためと死んでいった  
君は若くたくましく  
短い命だったが  
まぼろしのつばさと共に  
炎の中に消えてしまった  
君は若くたくましく  
短い命だったが  
まぼろしのつばさと共に  
炎の中に消えてしまった

君はあの夜 私に言った  
恋人と別れてきたと  
ぼくは今もおぼえているさ  
あの時 君のまなざし  
君が死んだ次の夜に  
かなしい涙であの女は死んだ  
もういやだこんな世界は  
もう二度と見たくない  
君が死んだ次の夜に  
かなしい涙であの女は死んだ  
もういやだこんな世界は  
もう二度と見たくない  
ラ・ラ・ラ…

## 17. 野に咲く花のように

作詞: 杉山政美 作曲: 小林亜星

野に咲く花のように風に吹かれて  
野に咲く花のように人を爽やかにして  
そんな風にぼく達も  
いきてゆけたらすばらしい  
時には暗い人生も  
トンネルぬければ夏の海  
そんな時こそ野の花の  
けなげな心を知るのです

野に咲く花のように雨にうたれて  
野に咲く花のように人を和やかにして  
そんな風にぼく達も  
生きてゆけたらすばらしい  
時にはつらい人生も  
雨のちくもりで また晴れる  
そんな時こそ野の花の  
けなげな心を知るのです

ルルルル . . . . .

## 19. さらば涙と言おう

詞: 阿久悠 曲: 鈴木邦彦 唄: 森田健作

さよならは誰に言う さよならは悲しみに  
雨の 降る日を待って さらば 涙と言おう  
頬をぬらす涙は 誰にも見せない  
こらえきれぬ時には 小雨に流そう  
さみしさも悲しさも いくたびか出会うだろう  
だけど そんな時でも さらば 涙と言おう

青春の勲章は くじけない心だと  
知った 今日であるなら さらば 涙と言おう  
まぶたはらす涙は こぼしちやいけない  
こらえきれぬ時には まつげにためよう  
恋のため愛のため まっすぐに生きるため  
泣ける こともあるけど さらば 涙と言おう

## 18. 上を向いて歩こう

作詞: 永六輔 作曲: 中村八大

上を向いて歩こう 涙がこぼれないように  
思い出す春の日 一人ぼっちの夜  
上を向いて歩こう にじんだ 星を数えて  
思い出す夏の日 一人ぼっちの夜

幸せは雲の上に 幸せは空の上に

上を向いて歩こう 涙こぼれないように  
泣きながら歩く 一人ぼっちの夜

思い出す秋の日 一人ぼっちの夜

悲しみは星の影に 悲しみは月の影に

上を向いて歩こう 涙がこぼれないように  
泣きながら歩く 一人ぼっちの夜  
一人ぼっちの夜 . . . . .

## 20. サルビアの花

詩: 相沢靖子 曲: 早川義夫

いつもいつも思ってた サルビアの花を  
あなたの部屋の中に 投げ入れたくて  
そして君のベットに サルビアの紅い花 しきつめて  
僕は君を死ぬまで 抱きしめていようと

なのになのに どうして他の人のところに  
僕の愛の方が すてきなのに  
泣きながら 君のあとを追いかけて  
花ふぶき舞う道を  
教会の鐘の音は なんてうそっぱちなさ

泣きながら 君のあとを追いかけて  
花ふぶき舞う道を  
ころげながら ころげながら 走りつづけたのさ

## 21.遠くで汽笛を聞きながら

詩:谷村新司 曲:堀内孝雄

悩みつづけた日々が まるで嘘のように  
忘れられる時が 来るまで心を閉じたまま  
暮らしてゆこう 遠くで汽笛を聞きながら  
何もいいことがなかったこの街で

俺を見捨てた女を 恨んで生きるより  
幼い心に秘めた むなしい涙の捨て場所を  
さがしてみたい 遠くで汽笛を聞きながら  
何もいいことがなかったこの街で

せめて一夜の夢と 泣いて泣き明かして  
自分の言葉に嘘は つくまい人を裏切るまい  
生きてゆきたい 遠くで汽笛を聞きながら  
何もいいことがなかったこの街で

## 24.春夏秋冬

詩・曲:泉谷しげる

季節のない街に生まれ 風のない丘に育ち  
夢のない家を出て 愛のない人にあう  
人のためによかれと思い 西から東へかけずりまわる  
やっとみつけたやさしさは いともたやすくしなびた

春をながめる余裕もなく 夏をのりきる力もなく  
秋の枯葉に身をつつみ 冬に骨身をさらけ出す  
今日ですべてが終わるさ 今日ですべてが変わる  
今日ですべてがむくわれる 今日ですべてが始まるさ

季節のない街に生まれ 風のない丘に育ち  
夢のない家を出て 愛のない人にあう  
となりを横目でのぞき 自分の道をたしかめる  
また ひとつずるくなった 当分 てれ笑いがつづく

きたないところですが ヒマがあったら寄ってみて下さい  
ほんのついででいいんです 一度よってみて下さい

今日ですべてが終わるさ 今日ですべてが変わる  
今日ですべてがむくわれる 今日ですべてが始まるさ

## 22.今はもうだれも

詩・曲:佐竹俊郎

今はもう誰も 愛したくないの  
何もかも無くした 今の僕に出来る事  
淋しさだけがじっとしてる  
止めど流るる涙に  
ひとつひとつの 思い出だけが  
今はもう誰も 愛したくないの

今はもう誰も 愛したくないの  
何もかも無くした そんな僕に出来る事  
愛されたくて みんな君に  
僕の中に悲しみだけが  
たったひとつの 残りものなの  
今はもう誰も 愛したくないの

愛されたくて みんな君に  
僕の中に悲しみだけが  
たったひとつの 残りものなの  
今はもう誰も 愛したくないの  
愛したくないの 愛したくないの

## 23.さらば青春

詩・曲:小椋佳

僕は呼びかけはしない 遠くすぎ去るものに  
僕は呼びかけはしない かたわらに行くものさえ  
見るがいい黒い水が 抱き込むように流れてく  
少女よ泣くのはお止め 風も木も川も土も  
みんなみんな たわむれの口笛を吹く

僕は呼びかけはしない 遠くすぎ去るものに  
僕は呼びかけはしない かたわらに行くものさえ  
見るがいい黒い犬が えものさがしてかけて行く  
少女よ泣くのはお止め 空も海も月も星も  
みんなみんな うつろな輝きだ

ララ ララララ ララララ ララララララ ララ ラララ

## 25.若者たち

詩：藤田敏雄 曲：佐藤勝

君の行く道は 果てしなく遠い  
だのになぜ 歯をくいしばり  
君は行くのか そんなにしてまで

君のあの人は 今はもういない  
だのになぜ なにを探して  
君は行くのか あてもないのに

君の行く道は 希望へと続く  
空にまた 陽がのぼるとき  
若者はまた 歩きはじめる

空にまた 陽がのぼるとき  
若者はまた 歩きはじめる

## 27.バラが咲いた

詩・曲：浜口庫之助

バラが咲いた バラが咲いた  
まっかなバラが  
淋しかった僕の庭に バラが咲いた  
たったひとつ咲いたバラ  
小さなバラで  
淋しかった僕の庭が 明るくなった  
バラよバラよ 小さなバラ  
いつまでもそこに咲いてておくれ  
バラが咲いた バラが咲いた  
真っ赤なバラで  
淋しかった僕の庭が 明るくなった

バラが散った バラが散った  
いつの間にか  
ぼくの庭は前のように 淋しくなった  
ぼくの庭のバラは散って  
しまったけれど  
淋しかったぼくの心に バラが咲いた

## 26.風

詩：北山修 曲：橋田宣彦

人は誰も ただ一人旅に出て  
人は誰も ふるさとを振りかえる  
ちよっぴりさみしくて 振りかえっても  
そこにはただ風が 吹いているだけ  
人はだれも 人生につまずいて  
人はだれも 夢破れ振りかえる

プラタナスの 枯葉舞う冬の道で  
プラタナスの 散る音に振りかえる  
帰っておいでよと 振りかえっても  
そこにはただ風が 吹いているだけ  
人は誰も 恋をした切なさに  
人は誰も 耐え切れず振りかえる

何かをもとめて 振りかえっても  
そこにはただ風が 吹いているだけ  
振りかえらず ただ一人一歩ずつ  
振りかえらず 泣かないで歩くんだ  
何かをもとめて 振りかえっても  
そこにはただ風が 吹いているだけ  
吹いているだけ 吹いているだけ

## 28.この広い野原いっぱい

詩：小薊江圭子 曲：森山良子

この広い野原いっぱい 咲く花を  
ひとつ残らず あなたにあげる  
赤いリボンの 花束にして

この広い夜空いっぱい 咲く星を  
ひとつ残らず あなたにあげる  
虹に輝く ガラスにつめて

この広い海いっぱい 咲く舟を  
ひとつ残らず あなたにあげる  
青い帆に イニシャルつけて

この広い世界中の 何もかも  
ひとつ残らず あなたにあげる  
だから私に 手紙を書いて

## 29.白い色は恋人の色

詩：北山修 曲：加藤和彦

花びらの 白い色は 恋人の色  
なつかしい 白百合は 恋人の色  
ふるさとの あの人の あの人の  
足もとに 咲く白百合の  
花びらの白い色は 恋人の色

青空の澄んだ色は 初恋の色  
どこまでも美しい 初恋の色  
ふるさとの あのひとと あのひとと  
肩並べ 見たあの時の  
青空の澄んだ色は 初恋の色

夕焼けの 赤い色は 思い出の色  
涙でゆれていた 思い出の色  
ふるさとの あの人の あの人の  
潤んでいた ひとみに 映る  
夕焼けの赤い色は 思い出の色  
思い出の色  
思い出の色

## 31.乾杯

詩・曲：長淵 剛

かたい絆に 想いをよせて 語り尽くせぬ 青春の日々  
時には傷つき 時には喜び 肩をたたきあった あの日  
あれからどれくらい たったのだろう 沈む夕日を いくつ数えたらう  
故郷の友は 今でも君の 心の中にいますか

乾杯！ 今君は人生の 大きな 大きな舞台に立ち  
遥か長い道のりを 歩き始めた 君に幸せあれ！

キャンドルライトの中の二人を 今こうして 目を細めてる  
大きな喜びと 少しのさみしさを 涙の言葉で歌いたい  
明日の光を 身体にあびて ふり返えらずに そのまま行けばよい  
風に吹かれても 雨に打たれても 信じた愛に 背を向けるな

乾杯！ 今君は人生の 大きな 大きな舞台に立ち  
遥か長い道のりを 歩き始めた 君に幸せあれ！

乾杯！ 今君は人生の 大きな 大きな舞台に立ち  
遥か長い道のりを 歩き始めた 君に幸せあれ！  
君に幸せあれ！

## 30.初恋

詩・曲：村下孝蔵

五月雨は緑色 悲しくさせたよ一人の午後は  
恋をして淋しくて 届かぬ想いを暖めていた  
好きだよと言えずに 初恋は ふりこ細工の心  
放課後の校庭を 走る君がいた  
遠くで僕はいつでも君を探してた  
浅い夢だから 胸をはなれない

夕映えはあんず色 帰り道一人 口笛吹いて  
名前さえ呼べなくて とらわれた心見つめていたよ  
好きだよと言えずに 初恋は ふりこ細工の心  
風に舞った花びらが 水面を乱すように  
愛という字書いてみては ふるえてたあの頃  
浅い夢だから 胸をはなれない

放課後の校庭を 走る君がいた  
遠くで僕はいつでも君を探してた  
浅い夢だから 胸をはなれない

## 32. 安奈

詩・曲：甲斐よしひろ

安奈おまえの愛の灯はまだもえているかい

寒い夜だった つらくかなしい  
一人きりの 長い夜だった  
北へ向かう夜汽車は 俺の中の  
心のように すすり泣いてた  
そんな時おまえがよこした 便り  
ただ一言だけ さみしいって つづってた

※安奈 クリスマスキャンドルの灯はゆれているか  
安奈 おまえの愛の灯はまだもえているかい※

眠れぬ夜を いくつもかぞえた  
おまえのことを 忘れはしなかった  
それでも一人で生きてゆこうと  
のばせば届く愛をこわがってた  
安奈 寒くはないか おまえをつつむコートは  
ないけどこの手で あたためてあげたい

(※くり返し)

二人で泣いた夜を おぼえているかい  
わかちあった夢も 虹のように消えたけど

おまえのもとに今 帰ろうとして  
今夜俺は旅を始める  
クリスマスツリーにあかりがともり  
みんなの笑い声がきこえるころ  
安奈 おまえに逢いたい もえつきたローソクに  
もう一度 二人だけの愛の灯をともしたい

(※くり返し)

## 33. 昴

詩・曲：谷村新司

目を閉じて何も見えず 哀しくて目を開ければ  
荒野に向かう道より 他にに見えるものはなし  
鳴ゝ砕け散る 宿命の星たちよ  
せめて密やかに この身を照せよ  
我は行く 蒼白き頬のままで 我は行くさらば昴よ

呼吸をすれば胸の中 こがらしは吠き続ける  
されど我が胸は熱く 夢を追い続けるなり  
鳴ゝさんざめく 名も無き星たちよ  
せめて鮮やかに その身を終われよ  
我も行く 心の命ずるままに 我も行くさらば昴よ

鳴ゝいつの日か 誰かがこの道を  
鳴ゝいつの日か 誰かがこの道を  
我は行く 蒼白き頬のままで 我は行くさらば昴よ  
我は行くさらば昴よ

## 34. 浜辺の歌

詞：林古溪 曲：成田為三

あした浜辺を さまよえば  
昔のことぞ しの(偲)ばるる  
風の音よ 雲のさまよ  
寄する波も 貝の色も

ゆうべ浜辺を もとおれば  
昔の人ぞ しの(偲)ばるる  
寄する波よ 返す波よ  
月の色も 星の影も

## 35. 今日の日はさようなら

詞・曲：金子詔一

いつまでも絶えることなく 友だちでいよう  
明日の日を夢見て 希望の道を

空を飛ぶ鳥のように 自由に生きる  
今日の日はさようなら またあう日まで

信じあうよろこびを 大切にしよう  
今日の日はさようなら またあう日まで  
またあう日まで

### 36.ブルーシャトウ

詞:橋本淳作 曲:井上忠夫

森と泉に かこまれて 静かに眠る ブルー ブルー ブルー シャトウ  
あなたが僕を 待っている 暗くて淋しい ブルー ブルー ブルー シャトウ

きっとあなたは 紅(あか)いバラの バラのかおりが 苦しくて  
涙をそっと 流すでしょう  
夜霧のガウンに 包まれて 静かに眠る ブルー ブルー ブルー シャトウ ブルー  
ブルー ブルー ブルー ブルー ブルー シャトウ

きっとあなたは 紅いバラの バラのかおりが 苦しくて  
涙をそっと 流すでしょう  
夜霧のガウンに 包まれて 静かに眠る ブルー ブルー ブルー シャトウ ブルー

### 37.栄光の架橋

詞/曲:北川悠仁 唄:ゆず

誰にも見せない 泪(ナミダ)があった  
人知れず流した 泪があった  
決して平らな 道では なかった  
けれど確かに 歩いて来た道だ  
あの時想い描いた夢の 途中で今も  
何度も 何度もあきらめかけた夢の途中  
いくつもの日々を越えて 辿り着いた今がある  
だからもう 迷わずに進めばいい  
栄光の架橋へと…

悔しくて眠れなかった夜が あった  
恐くて震えていた夜が あった  
もう駄目だと全てが嫌になって  
逃げ出そうとした 時も  
思い出せばこうしてたくさんの  
支えの中で 歩いて来た  
悲しみや苦しみの先に それぞれの 光がある  
さあ行こう 振り返らず走り出せばいい  
希望に満ちた空へ…

誰にも見せない 泪(ナミダ)があった  
人知れず流した 泪があった  
いくつもの日々を越えて 辿り着いた今がある  
だからもう 迷わずに進めばいい  
栄光の架橋へと…  
終わらないその旅へと  
君の心へ続く架橋へと…

### 38.青葉城恋歌

作詞:星間船一 作曲・唄:さとう宗幸

広瀬川流れる岸辺 思い出は帰らず  
早瀬(はやせ)躍(おど)る光に 揺れていた君の瞳  
時はめぐり また夏が来て  
あの日と同じ 流れの岸  
瀬音(せおと)ゆかしき 杜(もり)の都  
あの人は もういない

七夕の飾りは揺れて 思い出は帰らず  
夜空輝く星に 願いをこめた君の囁(ささや)き  
時はめぐり また夏が来て  
あの日と同じ 七夕祭り  
葉ずれさやけき 杜の都  
あの人は もういない

青葉通り薫る葉緑 思い出は帰らず  
樹(こ)かげこぼれる灯に 濡れていた君の頬  
時はめぐり また夏が来て  
あの日と同じ 通りの角(かど)  
吹く風やさしき 杜の都  
あの人は もういない

時はめぐり また夏が来て  
あの日と同じ 流れの岸  
瀬音(せおと)ゆかしき 杜(もり)の都  
あの人は もういない

### 39. 負けないで

作詞: 坂井泉水 作曲: 織田哲郎

ふとした瞬間に 視線がぶつかる  
しあわせのときめき 覚えているでしょう  
パステルカラーの季節に恋した  
あの日のように輝いてる  
あなたでいてね

\* 負けないで もう少し  
最後まで走りぬけて  
どんなに離れてても  
心はそばにいるわ  
追いかけて 遥かな夢を

何が起きたって ヘッチャラな顔して  
どうにかなるサと おどけてみせるの  
今宵はわたくしと一緒に おどりましょう  
今もそんなあなたが好きよ  
忘れないで

\*\*負けないで  
ほらそこに ゴールは近づいてる  
どんなに離れてても  
こころはそばにいるわ  
感じてね 見つめる瞳

\* と \*\* をくり返し

### 41. 歩いて帰ろう

作詞・作曲・唄: 斉藤和義

走る街を見下ろして のんびり雲が泳いでく  
誰にも言えないことは どうすりゃいいの? おしえて  
急ぐ人にあやつられ 右も左も 同じ顔  
寄り道なんかしてたら 置いてかれるよ すぐに  
嘘でごまかして 過ごしてしまえば  
たのみもしないのに 同じ様な朝が来る  
走る街を見下ろして のんびり雲が泳いでく  
だから歩いて帰ろう 今日は 歩いて 帰ろう

嘘でごまかして 過ごしてしまえば  
たのみもしないのに 同じ様な風が吹く  
急ぐ人にあやつられ 言いたい事は胸の中  
寄り道なんかしてたら 置いてかれるよ いつも  
走る街を見下ろして のんびり雲が泳いでく

### 40. 空も飛べるはず

作詞: 草野正宗 作曲: 草野正宗

幼い微熱を下げられないまま神様の影を恐れて  
隠したナイフが似合わない僕をおどけた歌でなぐさめた  
色褪せながら ひび割れながら輝くすべを求めて  
君と出逢った奇跡がこの胸に溢れてる  
きっと今は自由に空も飛べるはず  
夢を濡らした涙が海原へ流れたら  
ずっとそばで笑っていて欲しい

切り札にした見えすいた嘘は満月の夜に破いた  
儂く揺れる髪のおいで深い眠りから覚めて  
君と出逢った奇跡がこの胸に溢れてる  
きっと今は自由に空も飛べるはず  
ゴミで煌めく世界が僕たちを拒んでも  
ずっとそばで笑っていて欲しい

君と出逢った奇跡がこの胸に溢れてる  
きっと今は自由に空も飛べるはず  
夢を濡らした涙が海原へ流れたら  
ずっとそばで笑っていて欲しい

### 42. なんとなくなんとなく

詩・曲: かまやつひろし

君と逢った その日から なんとなくしあわせ  
君と逢った その日から 夢のようなしあわせ

こんな気持ち はじめてなのさ  
分けてあげたい このしあわせを  
なんとなく なんとなく 大声あげて 叫びたい

困っちゃったなあ 君を好きになっちゃたんだ  
ただなんとなく

こんな気持ち はじめてなのさ  
分けてあげたい このしあわせを  
なんとなく なんとなく なんとなく しあわせ  
なんとなく なんとなく なんとなく しあわせ  
なんとなく なんとなく なんとなく しあわせ  
なんとなく なんとなく しあわせ きっと

### 43.ずっと好きだった

作詞・曲・唄: 斉藤和義

この町を 歩けば 蘇る 16才  
教科書の 落書きは ギターの絵と キミの顔  
俺たちの マドンナ イタズラで 困らせた  
懐かしい その声くすぐったい 青い春  
ずっと好きだったんだぜ 相変わらず綺麗だな  
ホント好きだったんだぜ ついに言い出せなかったけど  
ずっと好きだったんだぜ キミは今も綺麗だ  
ホント好きだったんだぜ 気づいてたろうこの気持ち  
話し足りない気持ちは もう止められない  
今夜みんな帰ったら もう一杯どう? 二人だけで

この町を 離れてしあわせは 見つけたかい?  
「教えてよ やっぱいいや・」あの日の キスの意味  
ずっと好きだったんだぜ まるであの日みたいだ  
ホント好きだったんだぜ もう夢ばかり見てないけど  
ずっと好きだったんだぜ キミは今も綺麗だ  
ホント好きだったんだぜ 帰したくないこの気持ち  
ずっと好きだったんだぜ 相変わらず綺麗だな  
ホント好きだったんだぜ  
ずっと好きだったんだぜ  
ホント好きだったんだぜ

### 44.マリーゴールド

作詞・曲・唄: あいみょん

風の強さがちょっと 心を揺さぶりすぎて 真面目に見つめた 君が恋しい  
でんぐり返しの日々 可哀想なふりをして だらけてみたけど 希望の光は  
目の前でずっと輝いている 幸せだ  
麦わらの帽子の君が 揺れたマリーゴールドに似てる  
あれは空がまだ青い夏のこと 懐かしいと笑えたあの日の恋  
「もう離れないで」と 泣きそうな目で見つめる君を  
雲のような優しさでそっとぎゅっと 抱きしめて 抱きしめて 離さない

本当の気持ち全部 吐き出せるほど強くはない でも不思議なくらいに 絶望は見えない  
目の奥にずっと写るシルエット 大好きさ  
柔らかな肌を寄せあい 少し冷たい空気を2人  
かみしめて歩く今日という日に 何と名前をつけようかなんて話して  
ああ アイラブユーの言葉じゃ 足りないからとキスして  
雲がまだ2人の影を残すからいつまでも いつまでも このまま  
遥か 遠い場所にも繋がっていたいなあ 2人の想いが 同じでありますように

麦わらの帽子の君が 揺れたマリーゴールドに似てる  
あれは空がまだ青い夏のこと 懐かしいと笑えたあの日の恋  
「もう離れないで」と 泣きそうな目で見つめる君を  
雲のような優しさでそっとぎゅっと 抱きしめて離さない  
ああ アイラブユーの言葉じゃ 足りないからとキスして  
雲がまだ2人の影を残すからいつまでも いつまでも このまま 離さない  
いつまでも いつまでも 離さない

## 45.サボテンの花

詞・曲 財津和夫

ほんの小さな出来事に  
愛は傷ついて  
君は部屋をとびだした  
真冬の空の下に  
編みかけていた手袋と  
洗いかけの洗濯物  
シャボンの泡がゆれていた  
君の香りがゆれてた

たえまなくふりそそぐこの雪のように  
君を愛せばよかった  
窓にふりそそぐこの雪のように  
二人の愛は流れた

思い出つまったこの部屋を  
僕も出てゆこう  
ドアにかぎをおろした時  
なぜか涙がこぼれた  
君が育てたサボテンは  
小さな花をつくた  
春はもうすぐそこまで  
恋は今終わった

この長い冬が終るまでに  
何かをみつけて生きよう  
何かを信じて生きてゆこう  
この冬が終るまで

この長い冬が終るまでに  
何かをみつけて生きよう  
何かを信じて生きてゆこう  
この冬が終るまで

ララララ……………

## 47.そんなヒロシに騙されて

おまえが好きだと 耳元でいったそんなヒロシにだまされ渚にたたずむ  
踊りが上手で ウブなふりをした そんなヒロシが得意な エイト・ビートのダンス  
泣いたりしたら いけないかもね ディスコティックは 夜通し熱い  
だから一言下さい 恋の行方はメランコリー  
だからお前はステキさ 愛が消えてく横須賀に

小粋なリードで 私を誘った あんな男がいまさら 許せるでしょうか  
ふたりの仲は 永遠だもの ジュークボックス 鳴りつづけてる  
だから彼氏に伝えて くちづけだけを待っている  
胸の鼓動がはげしい サイケな夏を横須賀で

## 46.私はピアノ

詞・曲 桑田佳祐

人もうらやむよな仲が いつも自慢のふたりだった  
あなたとならどこまでも ゆけるつもりでいたのに  
突然の嵐みたいに音を立ててくずれてく  
涙が出ないのはなぜ 教えて欲しいだけさ  
あなたから 目が離せない  
ふたりして聞くわ ラリーカールトン  
日だまりの中で抱かれ いつしか時の徒然に  
思い出に酔うひまもなく心から好きよと云えた  
あの頃がなつかしくて 何もかも  
あなたがいなければ 一から十までひとり  
言葉もないままに生きてる  
くり返すのは ただ Lonely play

思い切り感じたままに 見せるしぐさやさしくて  
言葉じゃなくて態度で 解かり合えてもいたのに  
男の人ならだれでも 細い肩を抱けばわかる  
夜が怖いよな女にや それでいいのよすべて  
つらいけど 涙 見せない  
雨のふる夜には ビリー・ジョエル  
情ない女になってしまいそな時にはサンバ  
ためいきが 出ちゃうよな恋 静かに 抱きすくめられて  
焼けた素肌が今でもなつかしい  
ひとしきり 泣いたら 馬鹿げた事ネと思う  
ピアノに問いかけてみたけど  
ピアノに問いかけてみたけど  
くり返すのは ただ Lonely play Lonely play

## 48.僕の胸でおやすみ

詞・曲：山田つぐと

君の笑顔の むこうにある悲しみは  
僕のとどかないところにあるものなのか  
ふたりで歩いてきた道なのになんて淋しい  
古いコートは捨てて 僕の胸でおやすみ

春はおとずれ そして去っていく  
変わってしまう悲しみは 僕も知っている  
この船であてのない ふたりならば  
古いコートは捨てて 僕の胸でおやすみ

ふたりで歩いてきた道なのになんて淋しい  
古いコートは捨てて 僕の胸でおやすみ  
僕の胸でおやすみ

## 49.学生時代

詞・曲：山田つぐと

つたのからまるチャペルで 祈りを捧げた日  
夢多かりしあの頃の 思い出をたどれば  
なつしい友の顔が 一人一人浮かぶ  
重いカバンをかかえて かよったあの道  
秋の日の図書館の ノートとインクのにおい  
枯葉の散る窓辺 学生時代

讚美歌を歌いながら 清い死を夢みた  
何のよそおいもせずに 口数も少なく  
胸の中に秘めていた 恋への憧れは  
いつもはかなくやぶれて 一人書いた日記  
本棚に目をやれば あの頃読んだ小説  
過ぎし日よ 私の学生時代

ロウソクの灯に輝く 十字架をみつめて  
白い指を組みながら うつむいていた友  
その美しい横顔 姉のように慕い  
いつまでも変わらずにと 願った幸せ  
テニス・コート キャンプ・ファイヤー  
なつしい 日々は帰らず  
素晴らしいあの頃 学生時代  
素晴らしいあの頃 学生時代

## 50.時代

詞・曲：中島みゆき

今はこんなに悲しくて 涙もかれ果てて  
もう二度と笑顔には なれそうもないけど

そんな時代もあったねと  
いつか話せる日がくるわ  
あんな時代もあったねと  
きっと笑って話せるわ  
だから 今日はいくよよしない  
今日の風に吹かれましょう  
まわるまわるよ 時代はまわる  
喜び悲しみくり返し  
今日は別れた恋人たちも  
生まれ変わって めぐりあうよ

旅を続ける人々は  
いつか故郷に出会う日を  
たとえ今夜は倒れても  
きっと信じてドアを出る  
たとえ今日は果てしもなく  
冷たい雨が降っていても  
めぐるめぐるよ 時代はめぐる  
別れと出逢いをくり返し  
今日は倒れた旅人たちも  
生まれ変わって歩き出すよ  
まわるまわるよ 時代はまわる  
別れと出逢いをくり返し  
今日は倒れた旅人たちも  
生まれ変わって歩き出すよ  
今日は倒れた旅人たちも  
生まれ変わって歩き出すよ

## 51.眼をとじて

詞・曲：山田つぐと

あなたが首を かしげて見ていた  
あの銀杏はもう すっかり黄色  
落葉は あなたの足跡消して  
私に何も残さない

二人には通り過ぎた季節  
思い出は私だけのもの  
哀しさも私だけのもの  
今一人黄金色の中

落葉の音は あなたの声のよう  
ふりむいてしまう 私に何もない  
ただ眼をとじて この木の下で  
待ってます ルルル...

## 52.海岸通り

詞・曲：伊勢正三

あなたが船を選んだのは  
私への思いやりだったのでしょうか  
別れのテープは切れるものだとなぜ  
気づかなかったのでしょうか  
港に沈む夕陽がとてもきれいですね  
あなたをのせた船が小さくなってゆく

夜明けの海が悲しいことを  
あなたから 教えられた海岸通  
あなたの言うとうり 妹のまま  
いた方が 良かったかもしれない  
あなたがいつか この街離れてしまうことを  
やさしい腕の中で 聞きたくはなかった  
まるで昨日と同じ海に波を残して  
あなたをのせた船が小さくなってゆく

## 53.妹

詞：喜多条忠 曲：南こうせつ

妹よ  
ふすま一枚 隔てて今  
小さな寝息をたてている 妹よ  
お前は夜が 夜が明けると 雪のような  
花嫁衣裳を着るのか

妹よ  
お前は器量が悪いのだから  
俺はずい分心配していたんだ  
あいつは俺の友達だから  
たまには三人で酒でも飲もうや

妹よ  
父が死に 母が死にお前ひとり  
お前ひとりだけが 心のきがかり  
明朝 お前が出ていく前に  
あの味噌汁の 作り方を書いてゆけ

妹よ  
あいつはとってもいい奴だから  
どんなことがあっても 我慢しなさい  
そして どうしても どうしても  
どうしてもだめだったら  
帰っておいで 妹よ...

## 54.神田川

詞：喜多条忠 曲：南こうせつ

貴方は もう忘れたかしら  
赤い手拭 マフラーにして  
二人で行った 横町の風呂屋  
一緒に出ようねって 言ったのに  
いつも私が 待たされた  
洗い髪が芯まで 冷えて  
小さな石鹼 カタカタ鳴った  
貴方は私の 身体を抱いて  
冷たいねって 言ったのよ  
若かったあの頃 何も怖くなかった  
ただ貴方のやさしさが 怖かった

貴方は もう捨てたのかしら  
二十四色の クレパス買って  
貴方が描いた 私の似顔絵  
巧く描いてねって 言ったのに  
いつもちっとも 似てないの  
窓の下には 神田川  
三畳一間の 小さな下宿  
貴方は私の 指先見つめ  
悲しいかいて きいたのよ  
若かったあの頃 何も怖くなかった  
ただ貴方のやさしさが 怖かった

## 55.知床旅情

詞・曲：森繁久彌

知床の岬に はまなすの咲くころ  
思い出しておくれ 俺たちの事を  
飲んで騒いで 丘にのぼれば  
はるかクナシリに 白夜は明ける

旅の情けか 飲むほどにさまよい  
浜に出てみれば 月はてる照る波の上  
今宵こそ君を 抱きしめんと  
岩かげに寄れば ピリカが笑う

別れの日には来た ラウスの村にも  
君は出てゆく 峠をこえて  
忘れちゃいやだよ 気まぐれカラスさん  
私を泣かすな 白いかもめよ

私を泣かすな 白いかもめよ

## 56.また逢う日まで

詞:阿久悠 曲:筒美京平

また逢う日まで逢える時まで  
別れのそのわけは話したくない  
なぜかさみしいだけ なぜかむなししいだけ  
たがいに傷つきすべてをなくすから  
ふたりでドアをしめて ふたりで名前消して  
その時心は何かを話すだろう

また逢う日まで逢える時まで  
あなたは何処にいて何をしてるの  
それは知りたくない それはききたくない  
たがいに気づかい昨日にもどるから  
ふたりでドアをしめて ふたりで名前消して  
その時心は何かを話すだろう

ふたりでドアをしめて ふたりで名前消して  
その時心は何かを話すだろう

## 57.能古島の片思い

詞・曲:井上陽水

つきせぬ波のざわめく声に今夜は眠れそうにない  
浜辺に降りて裸足になれば とどかぬ波のもどかしさ  
僕の声が君にとどいたらステキなのに

つめたい風は季節を僕に耳打ちする逃げていく  
時折砂はサラサラ泣いて思わず僕ももらい泣き  
僕の胸は君でいっぱいこわれそうだ

遠くに見える灯は  
南へ行く船の幸せかな

悲しいだけの今夜の気持ちなにかをすればまぎれると  
星屑なんか数えてみても涙でそれも続かない  
君が僕の中にいるかぎり  
波の声で僕は眠れない本当なんだ

## 59.落陽

詞:岡本おさみ 曲:吉田拓郎

しぼったばかりの夕陽の赤が 水平線からもれている  
苦小牧発・仙台行きフェリー  
あのじいさんときたら わざわざ見送ってくれたよ  
おまけにテープをひろってね 女の子みたいにさ

※ みやげにもらったサイコロふたつ 手の中でふれば  
また振り出しに戻る旅に 陽が沈んでゆく

## 58.襟裳岬

詞:岡本おさみ 曲:吉田拓郎

北の街ではもう 悲しみを暖炉で  
燃やしはじめてるらしい  
理由のわからないことで  
悩んでいるうち  
老いぼれてしまうから  
黙りとおした 歳月を  
ひろい集めて 暖めあおう  
襟裳の春は 何もない春です

君は二杯めだよ ね コーヒーカップに  
角砂糖をひとつだったね  
捨てて来てしまった  
わずらわしさだけを  
くるくるかきまわして  
通りすぎた 夏の匂い  
思い出して 懐かしいね  
襟裳の春は 何もない春です

日々の暮らしはいやでも  
やってくるけど  
静かに笑ってしまおう  
いじけることだけが 生きることだと  
飼い馴らしすぎたので  
身構えながら 話すなんて  
ああ おくびよう なんだよね  
襟裳の春は 何もない春です

寒い友だちが 訪ねてきたよ  
遠慮はいらないから  
暖まってゆきなよ

女や酒よりサイコロ好きで  
すってんてんのあのじいさん  
あんたこそが正直者さ  
この国ときたら 賭けるものなどないさ  
だからこうして漂うだけ  
※ くり返し

サイコロころがしあり金なくし  
フーテン暮しのあのじいさん  
どこかで会おう 生きていてくれ  
ろくでなしの男たち 身を持ちくずしちまった  
男の話をきかせてよ サイコロころがして  
※ くり返し

## 60.未来へ

詞・曲：玉城千春

※ ほら足元を見てごらん これがあなたの歩む道  
ほら前を見てごらん あれがあなたの未来

母がくれたたくさんの優しさ  
愛を抱(いだ)いて歩めと繰り返した  
あの時はまだ幼くて意味など知らない  
そんな私の手を握り一緒に歩んできた

夢はいつも空高くあるから  
届かなくて怖いね だけど追い続けるの  
自分の物語(ストーリー)だからこそ諦めたくない  
不安になると手を握り一緒に歩んできた

その優しさを時には嫌がり  
離れた母へ素直になれず

※ 2回くり返す  
未来へ向かって ゆっくりと 歩いて行こう

## 61.結婚しようよ

詞・曲：吉田拓郎

僕の髪が肩までのびて 君と同じになったら  
約束どおり町の教会で 結婚しようよ Whm...  
古いギターをポロンと鳴らそう 白いチャペルが見えたら  
仲間を呼んで花をもらおう 結婚しようよ Whm...

もうすぐ春が ペンキを肩に  
お花畑の中を 散歩にくるよ

そしたら君は窓をあけて エクボを見せる 僕のために  
僕は君をさらいにくるよ 結婚しようよ Whm...  
雨が上がって雲のきれ間に お陽様さんが見えたら  
ひざっこぞうをたたいてみるよ 結婚しようよ Whm...

二人で買った緑のシャツを  
僕のおうちのベランダに並べて干そう

結婚しようよ 僕の髪は もうすぐ肩まで とどくよ

## 62.赤ちょうちん

詞：喜多条忠 曲：南こうせつ

あのころふたりの アパートは  
裸電球 まぶしくて  
貨物列車が 通ると揺れた  
ふたりに似合いの 部屋でした  
覚えてますか 寒い夜  
赤ちょうちんに 誘われて  
おでんを沢山 買いました  
月に一度の ぜいたくだけど  
お酒もちょっぴり 飲んだわね

雨がつづく と 仕事もせずに  
キャベツばかりを かじってた  
そんな生活が おかしくて  
あなたの横顔 見つめてた  
あなたと別れた 雨の夜  
公衆電話の 箱の中  
ひざをかかえて 泣きました  
生きてることは ただそれだけで  
哀しいことだと 知りました

今でも時々 雨の夜  
赤ちょうちんも 濡れている  
屋台にあなたがいるような気がします  
背中丸めて サンダルはいて  
ひとりで いるような気がします



© dak

## 63. 学生街の喫茶店

詞: 山上路夫 曲: すぎやまこういち

君とよくこの店に 来たものさ  
訳もなくお茶を飲み 話したよ  
学生でにぎやかな この店の  
片隅で聴いていた ボブ・ディラン  
あの時の歌は聴こえない  
人の姿も変わったよ 時は流れた  
あの頃は愛だとは 知らないで  
サヨナラも言わないで 別れたよ  
君と

君とよくこの店に 来たものさ  
訳もなくお茶を飲み 話したよ  
窓の外 街路樹が美しい  
ドアを開け 君が来る気がするよ  
あの時は道に枯葉が  
音もたてずに舞っていた 時は流れた  
あの頃は愛だとは 知らないで  
サヨナラも言わないで 別れたよ  
君と 君と...

## 65. 幸せなら手をたたこう

詞: きむらりひと 曲: スペイン民謡

幸せなら 手をたたこう  
幸せなら 手をたたこう  
幸せなら 態度でしめそうよ  
ほら みんなで 手をたたこう

幸せなら 足ならそう  
幸せなら 足ならそう  
幸せなら 態度でしめそうよ  
ほら みんなで 足ならそう

幸せなら 肩たたこう  
幸せなら 肩たたこう  
幸せなら 態度でしめそうよ  
ほら みんなで 肩たたこう

幸せなら ほっぺたたこう  
幸せなら ほっぺたたこう  
幸せなら 態度でしめそうよ  
ほら みんなで ほっぺたたこう

## 64. ロマンズ

詞: 山上路夫 曲: 堀内護

君 忘れないでいて 若い愛の日を  
今日はぼくたちに 二度とはこない  
この河にそった道 肩をよせてゆく  
そんなことさえも おぼえておこう  
ぼくらは一つの愛に今 結ばれているよ  
変わらぬロマンの花を咲かせよう

この橋を渡る時 街はぼくたちを  
いつも呼んでるよ 明るくさざめき  
今 君とながめてる 河にうかぶ舟  
そんなことさえも おぼえておこう  
ぼくらは一つの愛に今 結ばれているよ  
変わらぬロマンの花を咲かせよう  
変わらぬこの愛二人 誓い合おう

変わらぬロマンの花を咲かせよう  
変わらぬこの愛二人 誓い合おう

## 66. 真夜中のギター

詞: 吉岡浩 曲: 河村利夫

街のどこかに、淋しがり屋がひとり  
いまにも泣きそうに、ギターを奏している  
愛を失くして、なにかを求めて  
さまよう、似たもの同士なのね  
ここへおいでよ、夜はつめたく永い  
黙って夜明けまで、ギターを奏こうよ

空をごらんよ、淋しがり屋の星が  
なみだの尾をひいて、どこかへ旅に立つ  
愛を失くして、なにかを求めて  
さまよう、似たもの同士なのね  
そっとしときよ、みんな孤独でつらい  
黙って夜明けまで、ギターを奏こうよ

愛を失くして、なにかを求めて  
さまよう、似たもの同士なのね  
そっとしときよ、みんな孤独でつらい  
黙って夜明けまで、ギターを奏こうよ

ギターを奏こうよ  
ギターを奏こうよ

## 67.人生の扉

詞・曲：竹内まりや

春がまた来るたび ひとつ歳を重ね  
目に映る景色も 少しずつ変わるよ  
陽気にはしゃいでた 幼い日は遠く  
気がつけば五十路を 越えた私がいる  
信じられない速さで時が過ぎ去ると知ってしまったら  
どんな小さなことも覚えていたいと心が言ったよ  
I say it's fun to be 20  
You say it's great to be 30  
And they say it's lovely to be 40  
But I feel it's nice to be 50

満開の桜や 色づく山の紅葉を  
この先いったい何度 見ることになるだろう  
ひとつひとつ人生の扉を開けては感じるその重さ  
ひとりひとり愛する人たちのために生きてゆきたいよ

I say it's fine to be 60  
You say it's alright to be 70  
And they say still good to be 80  
But I'll maybe live over 90

君のデニムの青が褪せてゆくほど味わい増すように  
長い旅路の果てに輝く何かが誰にでもあるさ

I say it's sad to get weak  
You say it's hard to get older  
And they say that life has no meaning  
But I still believe it's worth living  
But I still believe it's worth living

## 69.切手のないおくりもの

詞・曲：財津和夫

私からあなたへ  
この歌を届けよう  
広い世界にたった1人の  
私の好きなあなたへ

歳老いたあなたへ  
この歌を届けよう  
心優しく育ててくれた  
御礼がわりにこの歌を

夢のないあなたへ  
この歌を届けよう  
愛することの喜びを知る  
魔法じかけのこの歌を

知り合えたあなたに  
この歌を届けよう  
今後よろしくお願ひします  
名刺がわりにこの歌を

別れゆくあなたに  
この歌を届けよう  
寂しいときに歌ってほしい  
遠い空からこの歌を

私からあなたへ  
この歌を届けよう  
広い世界にたった1人の  
私の好きなあなたへ  
私の好きなあなたへ

## 68.「イチゴ白書」をもう一度

詞・曲：荒井由実

いつか君と行った映画がまた来る  
授業を抜け出して二人で出かけた  
哀しい場面では涙ぐんでた

素直な横顔が今も恋しい  
雨に破れかけた街角のポスターに  
過ぎ去った昔が鮮やかによみがえる

君もみるだろうか「いちご白書」を  
二人だけのメモリー  
どこかでもう一度

僕は無精ヒゲと髪をのばして  
学生集会へも時々出かけた  
就職が決って髪を切ってきた時  
もう若くないさと  
君に言い訳したね

君もみるだろうか「いちご白書」を  
二人だけのメモリー  
どこかでもう一度  
二人だけのメモリー  
どこかでもう一度



## 70.チェリー

詞・曲：草野正宗

君を忘れない 曲がりくねった道を行く  
産まれたての太陽と 夢を渡る黄色い砂  
二度と戻れない くすぐり合って転げた日  
きっと 想像した以上に 騒がしい未来が 僕を待ってる  
“愛してる”の響きだけで 強くなれる気がしたよ  
ささやかな 喜びをつぶれるほど抱きしめて

こぼれそうな思い 汚れた手で書き上げた  
あの手紙はすぐにでも 捨てて欲しいと言ったのに  
少しだけ眠い 冷たい水でこじあけて  
今 せかされるように 飛ばされるように 通り過ぎてく  
“愛してる”の響きだけで 強くなれる気がしたよ  
いつかまた この場所で 君とめぐり会いたい

どんなに歩いて もたどりつけない 心の雪でぬれた頬  
悪魔のふりして 切り裂いた歌を 春の風に舞う花びらに変えて

君を忘れない 曲がりくねった道を行く  
きっと 想像した以上に 騒がしい未来が 僕を待ってる  
“愛してる”の響きだけで 強くなれる気がしたよ  
ささやかな 喜びをつぶれるほど抱きしめて  
ズルしても 真面目にも 生きてゆける 気がしたよ  
いつかまたこの場所で 君とめぐり会いたい

## 72.いのちの理由

詞・曲：さだまさし

私が生まれてきた訳は 父と母とに出会うため  
私が生まれてきた訳は きょうだいたちに出会うため  
私が生まれてきた訳は 友達みんなに出会うため  
私が生まれてきた訳は 愛しいあなたに出会うため

春来れば 花自ずから咲くように  
秋くれば 葉は自ずから散るように  
しあわせになるために 誰もが生まれてきたんだよ  
悲しみの花の後からは 喜びの実が実るように

私が生まれてきた訳は 何処かの誰かを傷つけて  
私が生まれてきた訳は 何処かの誰かに傷ついて  
私が生まれてきた訳は 何処かの誰かに救われて  
私が生まれてきた訳は 何処かの誰かを救うため

夜が来て闇自ずから染みるよう  
朝が来て 光自ずから照らすよう  
しあわせになるために 誰もが生きているんだよ  
悲しみの海の向こうから 喜びが満ちて来るように

私が生まれてきた訳は 愛しいあなたに出会うため  
私が生まれてきた訳は 愛しいあなたを護るため

## 71.くちなしの花

詞：水木かおる 曲：遠藤実

いまでは指輪も 回るほど  
やせてやつれた お前のうわさ  
くちなしの花の 花のかおりが  
旅路のはてまで ついてくる  
くちなしの 白い花  
おまえのような 花だった

わがままいっては 困らせた  
子どもみたいな あの日のお前  
くちなしの雨の 雨の別れが  
今でも心を しめつける  
くちなしの 白い花  
お前のような 花だった

小さな幸せ それさえも  
捨ててしまった 自分の手から  
くちなしの花を 花を見るたび  
淋しい笑顔が また浮かぶ  
くちなしの 白い花  
お前のような 花だった

## 73.TRUE LOVE

詞・曲：藤井フミヤ

振り返ると いつも君が笑ってくれた  
風のようにそっと  
まぶしすぎて 目を閉じても浮かんでくるよ  
涙に変わってく

君だけを信じて 君だけを傷つけて  
僕らはいつも はるか はるか 遠い未来を  
夢見てたはずさ

立ち止まると なぜか君はうつむいたまま  
雨のようにそっと  
変わらないよ あの日君と出会った日から  
涙に変わっても  
君だけをみつめて 君だけしかいなくて

僕らはいつも はるか はるか 遠い未来を  
夢見てたはずさ  
夢見てたはずさ

## 74.東京VICTORY

詞・曲：桑田佳祐

時を 駆けるよ Time goes round 変わりゆく My hometown  
彗星(ほし)が 流れるように  
夢の 未来へ Space goes round 友よ Forever young  
みんな頑張って それ行け Get the chance!!

果てしない空と 海の青さに 胸が騒ぐ  
幸せ求めて 人は出逢い 愛を交わす  
こんな争い事や 不安に満ちた世の中だけど

時を 駆けるよ Time goes round 麗し My hometown  
恋の花咲く 都  
回る 回るよ Space goes round 明日への Winning run  
風になりたくて 翔び立て One more chance!!

私を抱きしめ 守ってくれた 人はもういない  
希望の灯火(ともしび) それは金色(きん)に光る 一番星  
どうせ生まれたからにや 生命(いのち)の限り旅を続けよう

時を 駆けるよ Time goes round 変わりゆく My hometown  
川の流れるように  
ビルの街にも Rising sun 勝利の Final countdown  
自分を追い越して それ行け Get the chance!!

時が 止まったままの あの日の My hometown  
二度と戻れぬ 故郷  
夢の 未来へ Space goes round 友よ Forever young  
みんな頑張って TOKYO, The world is one!!  
We got the victory.

## 75.白い雲のように

詞詞：藤井フミヤ 曲：藤井尚之

遠ざかる 雲を見つめて  
まるで僕たちのようだねと 君がつぶやく  
見えない 未来を 夢見て  
ポケットの コインを集めて  
行けるところまで行こうかと君がつぶやく  
見えない 地図を 広げて

くやしくてこぼれ落ちた あの 涙も  
瞳の奥へ沈んでいった 夕日 も  
目を閉じると輝く 宝物だよ

風に吹かれて消えてゆくのに 僕らの足跡  
風に吹かれて歩いてゆくのに 白い雲のように

風に吹かれて消えてゆくのに 僕らの足跡  
風に吹かれて歩いてゆくのに 白い雲のように  
白い雲のように  
白い雲のように

遠ざかる 雲を見つめて  
まるで僕たちのようだねと 君がつぶやく  
見えない未来を 夢見て  
見えない未来を 夢みて  
白い雲のように

## 76.恋の季節

詞:岩谷時子 曲:いずみたく

忘れられないの あの人が好きよ  
青いシャツ着てさ 海を見てたわ  
私のはだしで 小さな貝の舟  
浮かべて泣いたの わけもないのに  
恋は 私の恋は 空を染めて燃えたよ  
死ぬまで私を ひとりにしないと  
あの人が言った 恋の季節よ

恋は 私の恋は 空を染めて燃えたよ  
夜明けのコーヒー ふたりで飲もうと  
あの人が言った 恋の季節よ

恋の季節よ 恋の季節よ

## 78.北国の春

詞:いではく 曲:遠藤実

白樺(しらかば) 青空 南風  
こぶし咲くあの丘 北国の  
ああ 北国の春  
季節が都会ではわからないだろうと  
届いたおふくろの小さな包み  
あの故郷(ふるさと)へ帰ろかな 帰ろかな

雪どけ せせらぎ 丸木橋  
落葉松(からまつ)の芽がふく 北国の  
ああ 北国の春  
好きだとおたがいに言いだせないまま  
別れてもう五年あの娘(こ)はどうしてる  
あの故郷へ帰ろかな 帰ろかな

山吹(やまぶき) 朝霧 水車小屋  
わらべ唄聞こえる 北国の  
ああ 北国の春  
兄貴も親父(おやじ)似て無口なふたりが  
たまには酒でも飲んでるだろか  
あの故郷へ帰ろかな 帰ろかな

## 77.故郷

詞:高野辰之 曲:岡野貞一

兔追いしかの山  
小鮒釣りしかの川  
夢は今もめぐりて  
忘れがたき故郷

如何にいます 父母  
恙なしや 友がき  
雨に風につけても  
思いいずる故郷

こころざしをはたして  
いつの日にか帰らん  
山はあおき故郷  
水は清き故郷

## 79.瀬戸の花嫁

詞:山上路夫 曲:平尾昌晃

瀬戸は日暮れて 夕波小波  
あなたの島へ お嫁に行くの  
若いと誰もが 心配するけれど  
愛があるから だいじょうぶなの  
だんだん畑と さよならするのよ  
幼い弟 行くなと泣いた  
男だったら 泣いたりせずに  
父さん母さん だいじにしてね

岬まわるの 小さな船が  
生まれた島が 遠くになるわ  
入江の向うで 見送る人たちに  
別れ告げたら 涙が出たわ  
島から島へと 渡ってゆくよ  
あなたとこれから 生きてく私  
瀬戸は夕焼け 明日も晴れる  
二人の門出 祝っているわ